

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 5 月 21 日現在

機関番号：37701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02600

研究課題名（和文）フランスにおけるコレージュ改革の射程と実効性：国語教育の再編を中心に

研究課題名（英文）Range and effectiveness of middle school reform in France: focusing on reorganization of French language education

研究代表者

飯田 伸二 (Iida, Shinji)

鹿児島国際大学・国際文化学部・教授

研究者番号：60289650

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：フランスの義務教育課程の国語学習指導要領及びこれの基礎となる学習目標をまとめた「知識・技能・教養からなる共通基盤」を解説を付して翻訳した。現行のフランスの学習指導要領は日本のそれに比して、学習方法・教材等ついて、より詳細な指示が施してある。そのため、これらの翻訳を通じ、義務教育過程における国語教育の実態、他科目との関連を具体的に解明できた。

発表論文では、1) 国語・文学教育の主眼が文学的言説の形式的・史的理解から価値・倫理の教育に移行しつつあること、2) 教育実践・評価の軸が学習項目から技能へ転換したこと、3) 国語教育ではイメージの読解がかつてないほど重要性を帯びていること等を明らかにできた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

フランスの義務教育課程は近年大きく変容しているものの、文学教育は大きな重要性を保持している。フランスでも、国語教育を現代社会の要請により適合したものに改革し、PISAに代表される国際評価で高い評点を得られるようにすべきである、という社会からの要求は年々強くなっている。

こうした要求を前に、日本では文学教育の重要性が低下する傾向が見てとれる。一方、日本と同様に長い文学的伝統を有するフランスでは、文学作品を教材と保持しながら、学習目標、学習方法、評価方法を改革することで、上記の社会的要求に対応しようと試みている。

以上から、本研究は日本における文学教育を考える上で貴重な視点を提供している。

研究成果の概要（英文）：We have translated and explained the french language learning programs for compulsory education in France and the "Common Foundation consisting of knowledge, skills, and culture" that summarizes the learning objectives that form the basis of these programs. Compared to these in Japan, the current programs in France provide more detailed instructions on learning methods, teaching materials, and other related matters. Through these translations, we have clarified the actual situation of language education in compulsory education and its relationship with other subjects.

In the research paper, we have revealed that: 1) the focus of language and literature education is shifting from formal and historical understanding of literary discourse to education on values and ethics, 2) the axis of educational practice and evaluation has shifted from learning items to skills, and 3) image comprehension has become more important than ever in language education.

研究分野：科目教育学

キーワード：前期中等教育 文学教育 プルヴェ（前期中等教育修了証） イメージの教育 コンピテンシー 国語教育 義務教育課程 道徳市民教育

## 1. 研究開始当初の背景

フランスでは2016年9月から大規模なコレージュ改革が推進された。この改革には、従来のフランスでは前期中等教育の段階から重視されてきた教科の専門家としての教員の職業アイデンティティーを問い直す施策、さらに現代フランス語だけを教えてきた国語という教科のあり方に再考を促す施策が盛り込まれた。それ故、国語教育を中心に改革の様相を正確に記述し、その理念・意義を解明することは、フランスの教育のみならず、広く国語・文学教育に関心のある研究者にとって喫緊の課題である。

### I. ダブル・スタンダード状態

フランスでは既に2006年に、義務教育課程を修了するすべての生徒が習得することを国が保証する学習内容が、「知識・技能からなる共通基盤」(以下「2006 共通基盤」)として制定された。国による学力保障が行われたのは、共和国フランスといえども、初めての政策であった。そのため、日本国内の研究者の関心も高く、翻訳も含めた多くの研究が行われてきた。

しかし、施行後10年が経過した2016年9月に行った現地聞き取り調査によれば、この政策は教育現場に十分浸透しているとは言い切れない状況であることが判明した。2009年に施行されたコレージュ旧カリキュラムは「2006 共通基盤」との関係を明確に定義しなかったからである。そのため、行政サイドの意図・方針を現場の教員に伝達することを重要な任務とする視学官さえもが、「2006 共通基盤」導入は、国語教育の方法、内容、評価方法において重要な変革をもたらさなかったことを認めている。こうした事態を現場の教員が直面している<改革疲れ>で単純に説明することはできない。2009年カリキュラムに対応した教科書でさえ、いずれも「2006 共通基盤」習得を目指した構成を採用していないからである。つまり、フランスでは2006年からの10年間、生徒が身に付けるべき能力・学力のリストと、学年ごとの学習項目を明示したリストが併存しながらも、その関係が教員・生徒に明確にされない状態が続いてきたのである。

### II. 関係の明確化に向けて

2016年以降の改革により、両者の関係の明確化が図られた。まず、同年3月、共通基盤が改定された。その際に、教養と批判精神の涵養を重視するフランスらしく、教養に関する条項が加わった。その結果、名称も「知識・技能・教養からなる共通基盤」に改められた(以下、「2015 共通基盤」)。これを受け、同年11月には「2015 共通基盤」に準拠する形で、2016年9月から施行されるカリキュラム(以下、「新カリキュラム」)が発表された。「新カリキュラム」の重要な意義は以下の点に求めることができる。すなわち、学習項目主義から学習成果主義への移行である。

### III. 国語という教科の変容

上記変革に加え、2016年コレージュ改革により、コレージュ第1学年から週1~2時間の個人支援授業が、加えて第2学年から第4学年の3年間は週に2~3時間の割合で科目横断型授業が導入された。さらに、選択科目のラテン語・ギリシア語教育を縮小する代わりに、その学習内容の一部を国語の授業の中に取り入れることが決定された。これらの決定は重要である。いずれも科目編成の中における国語の重要性を高める契機となりうるからである。だが、それにもまして重要なのは、いずれの決定も、古代語、とりわけラテン語の習得を中心とするエリート養成機関の名残を留めるリセ普通課程をモデルに立ち上げられた統一コレージュのあり方に根本的な再考・変更をもたらし得る改革だからである。これらの決定が国語教育に及ぼす影響は、現場の教員の対応、教科書を中心とする教材のあり方といった観点から、丁寧に調査・分析を行う必要がある。

## 2. 研究の目的

本研究の特色は、義務教育課程、とりわけ前期中等教育を通じて行われる国語教育の全体像を立体的に解明しようとする点にある。即ち、全生徒が義務教育課程修了時に獲得することが法的に保証されている1)「2015 共通基盤」を翻訳し、2)「2006 共通基盤」との比較検討等の通時的考察、3)「2015 共通基盤」に依拠した「新カリキュラム」の分析、4)教科書の体系的収集・考察、5)前期中等教育修了認定試験等による学力評価・認定手続き、6)授業見学・関係者への聞き取り調査、を有機的に関連付けた考究である。

管見の限り、フランスにおける国語教育研究の分野では、文学研究者として養成された研究者が絶対的多数を占めている。また、文学教育に大きな重要性を与えると同時に、最新の文学研究の傾向・成果を積極的に取り入れるフランス中等教育における国

語教育を理解するには、フランスの文学研究・教育の動向に精通しておくことが求められる。以上の理由から、フランスの コレージュ改革，その中で国語教育が果たす役割，またそれから国語教育が被る影響について総合的な視座を設定した研究は稀であり，その意味において，独創的かつ先進的な試みと位置付けることができる。

### 3. 研究の方法

上述の如く，本研究の目的は 2016 年コレージュ改革を通じて定着が図られている新たな学力の様相を，国語を中心に解明し，学力習得のために打ち出された諸施策の意義と教育現場における実効性を吟味することにある。この狙いを達成するには，研究期間中に，主に以下のような課題に取り組むことが必要である。

1) 国語を柱とする人文科学・芸術分野を中心に，義務教育課程修了に必要とされる学力の様相を解明する。特にその構成のロジックに大きな変化が見られる「2015 共通基盤」と「2006 共通基盤」との比較に基づいて分析する。そこから，ヨーロッパ連合が社会・市民に与える影響が日々強まる現代フランスで要求されている学力がどのように推移しているかを解明する。

2) 学習成果を軸にした初めてのカリキュラムである新カリキュラムを内容面からだけでなく，構成からも検討する。国語が中心になるが，他教科，とりわけ人文科学系教科を視野に入れた考察を展開する。特に小学校上学年(4・5年)との連携が一層強化された，コレージュ1年のカリキュラムについては小学校における国語学習も含め検討する。さらに学力を前景化させた新カリキュラムの分析を通して，2016 年改革は教員にどのような変化を求めているのか，つまり何を，どのように教えることを教員に期待しているのかを明確にする。

3) 国語を中心に，主要教科書会社が発行する「新カリキュラム」対応教科書を，旧カリキュラム対応教科書と比較照合しながら分析し，「2015 共通基盤」及び「新カリキュラム」の理念がどのように，またどの程度教材に反映されているかを解明する。フランスにおける教科書は，法令で授業での使用が義務付けられていない。そのため，これまでカリキュラム改訂に対して，教科書会社ごとに多様な対応が取られてきた。今回のカリキュラム改訂に対しても同様の反応が予想されるが，検証には，広汎な資料収集が必要となる。

4) 学習成果により編成されたカリキュラムの施行により，具体的に試験問題はどのように推移したのかを分析・考察する。そのために，2016 年度以降の前期中等教育修了認定試験，特に国語の筆記試験問題を分析し，求められている学力を提示する。さらに，試験が要求する学力と「2015 年共通基盤」で示されている能力との比較を行い，2016 年改革の理念が期中等教育を締めくくる試験に具体的にどのように反映されているか，また反映されていないかを検討する。

5) フランス国民教育相の省令，通達などの公式文章の検討，各種報告書の読解，フランス現地のコレージュの視察・授業参観，関係者(教員，視学官，生徒，保護者，研究者)への聞き取り調査を通じ，「2015 共通基盤」が示す学力獲得のための諸施策が，国語の授業ではどの程度浸透・定着し，学力獲得に貢献しているかを調査する。この調査は，2017 年 5 月に選出されたマクロン大統領が 2016 年改革の施策全てに肯定的な見解を示しているわけではないだけに重要である。

### 4. 研究成果

フランスの義務教育課程の国語学習指導要領及びこれの基礎となる学習目標をまとめた「知識・技能・教養からなる共通基盤」を，詳細な解説を付して翻訳した。現行のフランスの学習指導要領は日本のそれに比して，学習方法・教材等ついて，より詳細な指示が施してある。そのため，これらの翻訳を通じ，義務教育過程における国語教育の実態，他科目との関連を具体的に解明できた。

発表論文では，1) 国語・文学教育の主眼が文学的言説の形式的・史的理解から価値・倫理の教育に移行しつつあること，2) 教育実践・評価の軸が学習項目から技能へ転換したこと，3) 国語教育ではイメージの読解がかつてないほど重要性を帯びていること等を明らかにできた。

フランスの義務教育課程は近年大きく変容しているものの，文学教育は大きな重要性を保持している。フランスでも，国語教育を現代社会の要請により適合したものに改革し，PISA に代表される国際評価で高い評点を得られるようにすべきである，という社会からの要求は年々強くなっている。

こうした要求を前に，日本では文学教育の重要性が低下する傾向が見てとれる。一方，日本と同様に長い文学的伝統を有するフランスでは，文学作品を教材と保持しながら，学習目標，学習方法，評価方法等を改革することで，上記の社会的要求に対応しようと試みている。

以上から，本研究は日本における文学教育を考える上で貴重な視点を提供している。



## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 飯田 伸二	4. 巻 41
2. 論文標題 コレージュ改革後のブルヴェ試験：2017年フランス語読解問題の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Stella	6. 最初と最後の頁 233-245
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15017/6632432	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯田 伸二	4. 巻 23（3）
2. 論文標題 2017年ブルヴェ認定試験	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際文化学部論集 = The IUK journal of intercultural studies	6. 最初と最後の頁 123-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 飯田 伸二	4. 巻 21（2）
2. 論文標題 翻訳 フランス義務教育課程第4学習期の学習指導要領（フランス語）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際文化学部論集 = The IUK journal of intercultural studies	6. 最初と最後の頁 183-212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 飯田 伸二	4. 巻 39
2. 論文標題 フランス語教育の価値転換：前期中等教育を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Stella	6. 最初と最後の頁 145-158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15017/4355456	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 飯田伸二	4. 巻 20(1)
2. 論文標題 翻訳 フランス義務教育課程第二学習期の学習指導要領(フランス語) 《Programmes du cycle 2 (français)》 (traduction)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際文化学部論集 = The IUK journal of intercultural studies	6. 最初と最後の頁 23-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 飯田伸二	4. 巻 20(3)
2. 論文標題 翻訳 フランス義務教育課程第3学習期の学習指導要領(フランス語)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際文化学部論集 = The IUK journal of intercultural studies	6. 最初と最後の頁 209-239
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shinji IIDA	4. 巻 83
2. 論文標題 "Vous etes le roi du monde !" Les employes de bureau et l' evolution de leur image au Japon	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Hermes, la revue	6. 最初と最後の頁 98-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 飯田伸二	4. 巻 37
2. 論文標題 《翻訳》「知識・技能・教養からなる共通基盤」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Stella	6. 最初と最後の頁 19-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------